

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	老年看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	高木雅弘 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師30年)		
<p><科目目標> 老年期にある人の特徴・看護の機能と役割について理解する。 高齢者の生活を支える保健医療福祉制度および権利擁護について理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1・2	1. 老年期とは 1) 老年期の定義と老年看護学の位置づけ 2. 加齢と老化 1) 加齢に伴う身体的側面の変化 ① 恒常性と4つの力の低下 ② 疾病をめぐる特徴 2) 加齢に伴う心理的側面の変化 知能、人格、創造性の変化 3) 加齢に伴う社会的側面の変化 3. 老いを生きるということ 1) 老年期の発達課題 2) スピリチュアリティ 3) 老年期の健康 4. 高齢者の人生史・価値観 (ライフストーリー)	講義	
3	5. 加齢に伴う身体的変化が生活に及ぼす影響 ① 歩行 ② コミュニケーション ③ 食事、排泄、入浴動作、更衣 ④ 買い物 など	高齢者擬 似体験 GW・発表	
4	6. 高齢者疑似体験をとおして考える、高齢者の生活を支える援助 1) 高齢者にとっての安全な環境 2) 高齢者の自立を支える援助		
5・6	7. 超高齢社会の現状 1) 超高齢社会の現況 2) 平均寿命の推移 3) 高齢者と家族 4) 高齢者の健康状態 5) 高齢者の死亡 6) 高齢者の暮らし 8. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 老人福祉法から高齢者の医療の確保に関する法律までの経過 2) 地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの推進 3) 介護保険制度 4) 看護職の活動の拡大と専門化 5) 高齢者とソーシャルサポート	講義	
7	9. 権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 (1) スティグマ (2) エイジズム (3) 権利擁護 (アドボカシー) 2) 高齢者虐待 (1) 高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律(高 齢者虐待防止法) 3) 身体拘束	講義	

回	授業内容	授業方法
8	10. 老年看護とは 1) 老年看護の定義 2) 老年看護の対象 3) 老年看護の目的・目標 4) 老年看護の役割 (1) エンパワメント (2) ICF モデル (3) エンドオブライフケア (4) セルフヘルプグループ (5) 多職種連携 (ケアチーム) (6) リロケーションダメージの回避 5) 老年看護に役立つ理論・概念 (1) サクセスフルエイジング (2) コンフォート理論 (3) ストレングスモデル (4) ライフレビュー	講義
授業の進め方		
講義、高齢者疑似体験、グループワークを通して、老化が身体に及ぼす影響や心の変化、日常生活への影響などについて考える。		
高齢者疑似体験の演習後には体験をとおして考えた「高齢者の生活を支える援助」をグループ毎にまとめ、発表する。		
テキスト		
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)		
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)		
3. 国民衛生の動向 2022/2023 年版(厚生統計協会)		
評価方法		
1. 筆記試験		
2. レポート、グループワークの課題、授業参加状況により総合的に評価する。		

領 域	専門分野Ⅱ（老年看護学）	開講時期	2年前期
科 目 名 （单元名）	老年看護方法論Ⅰ （高齢者の日常生活援助）	単 位 数 （時間数）	1 単位（30 時間）
講 師 （所属・職位等・実務経験）	① 田尻 朝恵（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 14 年） ② 幸 邦子（別府医療センター・摂食嚥下障害認定看護師・看護師 37 年） ③ 山本 幸子（宇佐市西部圏域地域包括支援センター・看護師 20 年） ④ 雨宮 洋子（社会福祉法人泰生会・理事長・36 年）		
<科目目標> 加齢によって起こる身体・精神機能の変化や高齢者のQOLを理解し高齢者の生活機能の保持増進への援助を理解する。また、これまで学んだ日常生活援助技術の知識や技術を統合し高齢者の日常生活における自立を促進するための援助技術を理解する。			
<内容>			
回	内容	授業方法	担当講師
1	1. 高齢者の日常生活を支える基本的活動 1) 生活の基本となる日常生活動作と環境 (1) 基本動作 (2) 基本動作・姿勢を支える環境 2. 高齢者の生活機能と包括的アセスメント 1) 基本的日常生活動作（BADL）と手段的日常生活動作（IADL）の必要性 2) 高齢者における生活機能障がいのとらえ方 3) 日常生活活動の評価	講義	①
2	3. 高齢者の生活リズム 1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者に特徴的な変調 (1) 睡眠と覚醒の変化 (2) 睡眠障害 3) 高齢者の生活リズムのアセスメント (1) 睡眠の評価 (2) 生活リズムの変調 4) 生活リズムを整える看護 (1) 昼間のケア (2) 夜間のケア 4. 高齢者の活動（転倒・転落） 1) 転倒のアセスメントと看護 (1) 転倒リスクアセスメント (2) 転倒予防に向けた援助 (3) 転倒した高齢者への看護 2) 廃用症候群のアセスメントと看護 (1) 廃用症候群とは (2) 廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護	講義	①
3	4. 高齢者の活動 3) 介護予防に取り組むための支援 (1) 運動機能向上プログラムや閉じこもり予防のプログラム (2) 日常生活と運動	講義 演習	③
4・5	5. 高齢者の食事・食生活 1) 高齢者における食生活の意義 2) 加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 3) 食生活のアセスメント (1) 食事環境 (2) 摂食嚥下能力 (3) 栄養状態	講義 演習	②

回	内容	授業方法	担当講師
4・5	4) 食生活の支援 (1) 食べることへの意欲の維持・向上 (2) 食事形態の工夫 (3) 食器や自助具の工夫 (4) 口腔ケア 5) 危険を予測した観察と看護 (1) 誤嚥性肺炎 (2) 窒息 (3) 主体性の低下 (4) スキントラブル (5) 脱水 (6) 低栄養 6) 多職種協働による食支援 (1) 栄養サポートチーム (NST) 7) 咀嚼嚥下機能に障害をもつ高齢者の看護	講義 演習	②
6	6. 高齢者の排泄 1) 高齢者の排泄ケアの基本 (1) 高齢者の尊厳をまもる排泄ケア (2) 排泄リズムの把握と生活調整 2) 排尿障害のアセスメントとケア (1) 排尿のアセスメント (2) 排尿障害の特徴とケア ①尿失禁の病態と要因 ②尿失禁のケア 3) 排便障害のアセスメントとケア (1) 排便のアセスメント (2) 排便障がいの特徴とケア ①便秘・下痢の病態と要因②便秘・下痢のケア 4) おむつを使用している高齢者への援助	講義 演習 DVD①	①
7	4) おむつを使用している高齢者への援助の実際 (1) おむつ装着とおむつ交換の実際の援助 【事前課題】 テキストを基にオムツ装着時のケアについてまとめる。	演習	①
8・9	7. 高齢者の清潔 1) 高齢者の特徴 (1) 皮膚の老化 (2) 弾力性の低下 (3) 乾燥 (4) 感覚(温覚)機能の低下 2) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 (1) 皮膚障害 (2) 清潔のセルフケア能力の変化 3) 清潔のアセスメント 4) 清潔の援助の実際 (1) 安全・自立を支える入浴 (2) 清拭 (3) 陰部洗浄 (4) フットケア(足浴) (5) 耳のケア (6) 目のケア	講義 演習	①
10・11	8. 高齢者とのコミュニケーションとかわり方 1) コミュニケーションの基本 2) 高齢者にみられるコミュニケーション上の特徴 (1) 加齢変化 (2) 疾患、障害の影響 3) 高齢者とのコミュニケーションの原則 4) コミュニケーション能力のアセスメント 5) 高齢者におこりやすいコミュニケーション障害とアセスメント (1) 老人性(加齢性)難聴 (2) 失語症 (3) 構音障害 6) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの実際と方法 (1) 聴覚障害のある高齢者とのコミュニケーション ①高齢者の聴覚障害の病態と要因 ②聴覚障害の程度と生活機能への影響 ③補聴器を使用する高齢者とその家族への援助	講義 演習	①

回	内容	授業方法	担当講師
10・11	(2) 視覚障害のある高齢者とのコミュニケーション ①高齢者の視覚障害の病態と要因 ②視覚障がい程度の程度と生活機能への影響と看護 (3) 失語症・構音障害のある高齢者とのコミュニケーション ①高齢者の失語症の病態と要因 ②失語症・構音障害の程度と生活機能への影響 9. 高齢者のセクシュアリティ 1) 高齢者のセクシュアリティとは 2) セクシュアリティのアセスメントと看護 10. 高齢者の社会参加 1) 高齢化の現状と目ざす社会の方向性 2) 地域における高齢者の社会参加	講義 演習	①
12～ 15	11. 認知症高齢者の看護 1) 認知症とは (1) 認知症の定義 (2) 認知症高齢者の理解 (3) 認知症の疫学 (4) 認知症の分類 2) 認知症の症状 (1) 認知機能障害(中核症状) (2) 認知症の行動・心理症状 3) 認知症の治療と予防 4) 認知機能および生活機能の評価 (1) 認知機能の評価 (2) 生活機能の評価 (3) 評価尺度の活用方法 5) 認知症高齢者の看護 (1) 環境と環境調整 (2) 安全面への対処 (3) 対応の実際 (4) 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 (5) 認知症高齢者の環境調整 (6) 急性期医療における認知症高齢者の看護 (7) 認知症高齢者と家族へのサポートシステム	講義 DVD	④

授業の進め方

加齢が及ぼす症状や生活行動への影響に着目し、その要因を理解し考える。生活行動では日常生活行動だけでなく住環境や人的環境にも着目し、高齢者が社会で生活するための環境を考える。このように、高齢者の生活行動から援助を考え、高齢者のQOLとは何かを理解する。また、社会との関わりで必要となるコミュニケーションの阻害要因と看護を理解し、高齢者のコミュニケーションを理解する。認知症の病態と認知機能の評価について学習し、対象の状態に応じた日常生活援助の方法や留意点、認知症の高齢者を支えるケアシステム、家族支援のありようについて学習する。また、DVDの事例にて考えさせる。

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)：①②③④
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)：④
3. 看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ(日本看護協会出版会)：①
4. カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術(医歯薬出版株式会社)：①
5. DVD オムツからケアの改善点が見えてきた! 福島県高齢者排泄自立支援事業：①
6. DVD パーソナル・ソング(原題:A Story of Music and Memory) 2014公開：④

評価方法

筆記試験、レポート、演習における参加状況を総合的に評価する。

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (单元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の特徴的な看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)うち 30 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①大西 洋世 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 22 年) ②中村 香那 (別府医療センター・看護師 7 年) ③秋好 美希 (別府医療センター・副看護師長・看護師 11 年) ④安部 佐和美 (別府医療センター・透析看護認定看護師・看護師 19 年) ⑤福本 渚 (別府医療センター・教育担当師長・感染管理認定看護師 20 年) ⑥泉 雄大 (別府医療センター・看護師 8 年) ⑦脇坂 千晶 (西別府病院・看護師 18 年)		

<科目目標>

高齢者の療養生活を支える支援および老年期の特徴的な健康問題をもつ高齢者の看護を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法	担当講師
1 ～ 4	1. 入院を必要とする高齢者の看護(認知症高齢者の急性期一般病床での援助を含む) 1) 高齢者の入院 2) 生活適応を支援する看護活動 3) 生活適応を支援するケア 2. 検査をうける高齢者の看護 1) 高齢者の診察 2) 高齢者の検査 (1) 高齢者が受けることの多い検査 (2) 検査を受ける高齢者への援助 a. 検査説明場面への看護師の参加 b. 高齢者に説明する際の留意点 c. 検査前・中・後の不安の緩和 d. 検査による負担や侵襲の軽減 3. 高齢者の退院時の看護と継続看護 1) 退院計画立案に向けたアセスメント 2) 退院に向けた高齢者と家族の意思決定への支援 3) 退院に向けたチームアプローチ 4) 退院指導 4. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 服薬管理とリスクマネジメント ① 複数の疾患を罹患していることによる影響 ② 副作用をまねきやすい薬物 ③ 服薬管理 3) 薬物療法時の看護の要点 (1) 薬物療法時の看護師の役割 ① 薬物副作用の徴候の観察・評価 ② 薬物副作用の予防 ③ 服薬過誤の予防と看護 4) 高齢者の在宅を考慮した服薬	講義	①

1 ～4	<p>5. 手術を受ける高齢者の看護</p> <p>1) 麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響</p> <p>2) 高齢者の手術療法におけるインフォームド・コンセントと看護師の役割</p> <p>3) 術前準備における高齢者への援助 (1) 検査・手術に関する説明と理解 (2) 術前指導</p> <p>4) 手術中における高齢者への援助</p> <p>5) 術後合併症の予防と援助 (1) 早期離床への援助 (2) 術後せん妄と看護 (せん妄の病態と要因と予防のための援助、せん妄発生時の治療と援助)</p>	講義	
5	<p>6. 感覚機能に障害のある高齢者の看護</p> <p>1) 感覚機能障害の病態生理と症状 ① 視覚機能障害の病態および症状 視力低下、羞明、霧視、単眼複視、視野狭窄 明暗順応の延長 ② 聴覚機能障害の病態および症状 語音弁別能の低下、文章の了解度の低下、周波数選択性低下、時間分解機能低下</p> <p>2) 診断と治療(白内障、加齢黄斑変性、緑内障) ① 光線力学的療法、抗血管新生薬療法 ② 保存療法 ③ 手術療法 ④ 薬物療法</p> <p>3) 看護の要点 ① 服薬管理・点眼薬・点耳薬指導管理 ② 補聴器を使用する高齢者への看護 ③ 日内変動や経過に合わせた生活援助</p>	講義	②
6・7	<p>7. 排泄機能に障がいのある高齢患者の看護</p> <p>1) 病態及び症状</p> <p>2) 前立腺肥大症治療時の看護 ① 手術療法 ② 薬物療法</p> <p>3) 生活への影響のアセスメントと看護 ① 排尿障がいの種類(頻尿、排尿困難、尿失禁) ② 排尿障がいのアセスメントと看護(排尿障害の状況、尿閉のアセスメント、頻尿による睡眠障害、家族のサポート状況) ③ 排尿障がいの状況、日常生活に及ぼす影響 ④ 血尿スケール評価 ⑤ 頻尿による睡眠障がい</p>	講義	③
8 ～10	<p>8. 腎機能障害のある高齢患者の看護</p> <p>1) 病態及び症状 (腎不全、浮腫、高血圧、尿毒症)</p> <p>2) 腎不全における検査と援助</p> <p>3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 ① 薬物療法</p>	講義	④

8 ～10	<ul style="list-style-type: none"> ②食事療法 ③透析療法 <ul style="list-style-type: none"> i 保存期から透析導入期の援助 ii 血液透析を受ける患者の看護 iii 腹膜透析を受ける患者の看護 	講義	④
11	<p>9. 免疫機能の低下した高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の感染症の背景と特徴 <ul style="list-style-type: none"> ①身体的要因：加齢による変化(易感染性、認知力の低下、予備力の低下) ②感染症が高齢者の生活に与える影響 ③高齢者が罹患しやすい感染症 2) 感染症のリスクアセスメント 3) 感染症ケアの実際 <ul style="list-style-type: none"> ①感染の予防 ②感染症の早期発見のための高齢者の症状観察 ③感染症患者の看護(栄養の保持、清潔の保持、体力の消耗を抑える、脱水の予防) 	講義	⑤
12・13	<p>10. 運動機能障がいのある高齢患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 病態生理と症状 <p>加齢変化に伴う骨量の低下により発症率が上昇する疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ①骨粗しょう症 ②大腿部頸部骨折 ③腰部脊柱管狭窄症 ④変形性膝関節症 2) 診断と治療 <ul style="list-style-type: none"> ①薬物療法中心の治療（骨粗鬆症） ②保存療法（腰椎圧迫骨折） ③手術療法（人工骨頭置換術、人工膝関節置換術、腰椎椎弓切除術） ④リハビリテーション 3) 看護の要点 <ul style="list-style-type: none"> ①人工関節置換術後の生活指導 ②症状悪化・再発防止のための生活指導 ②リハビリを受ける高齢者への看護 	講義	⑥
14	<p>11. 脳・神経機能に障害のある高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) パーキンソン病の病態及び症状 2) 治療と援助 3) 看護の要点 <ul style="list-style-type: none"> ①服薬管理 ②日内変動や経過に合わせた生活援助 ③歩行への援助 	講義	⑦

15	12. 高齢者の終末期の看護 1) 終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 2) 高齢者の死の動向 3) 終末期における生き方や死の迎え方の意向 ①終末期に携わる医療の変化 (人間の尊厳、延命とQOL) ②アドバンスディレクティブ<事前指示> ③リビングウィル	講義	①
授業の進め方 老年看護学概論で学んだ加齢による身体的・精神的・社会的変化をふまえ、入院生活や治療が高齢者に及ぼす影響とその看護について学ぶ。講義では事例を用いて、多様な健康障害や価値観をもつ高齢者が療養生活を送るための支援について考えていく。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)：①⑦ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)：①⑦ 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕眼 (医学書院)：② 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 (医学書院)：③④ 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)：⑤ 6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器(医学書院)：⑥ 7. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護：⑦ 8. 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図(医学書院)：④⑥			
評価方法 筆記試験、レポート評価			

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期
科目名 (单元名)	老年看護方法論Ⅲ	単位数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師25年)		

<科目目標>

老年看護学概論、老年看護方法論で学んだ知識と技術を統合し、事例を用いて健康障がいを持つ高齢者の看護を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 老年看護における看護過程展開の特徴 2. 問題解決型思考と目標志向型志向 3. 高齢者の包括的アセスメントとアセスメント指標の活用 4. 事例紹介(パーキンソン病患者の看護)	講義
【課題1】75歳の男性、パーキンソン病で症状および薬物コントロールのため入院した患者の事例を提示する。老年看護学概論や老年看護方法論等の既習学習を活用し、事例患者の理解につながる学習を行う		
【課題2】2講目開始前までに1次アセスメントの記載を行う 疾患だけでなく、老化に伴う機能低下やこれまでの生活歴(生活の仕方や生き方)が影響していることを考慮して、今起こっていることの原因をアセスメントする		
2	5. 第1段階アセスメントの検討 1) 発達段階の特徴の考慮 2) 指標の活用 3) 強み因子の活用 4) 対処機制に影響する因子	講義 演習 (GW)
【課題3】3講目開始前までに1次アセスメントの追加・修正を行う 3講目開始前までに関連図の記載を行う		
3	6. 関連図の検討 1) 第2段階アセスメント・関連図・看護診断を検討し、事例患者の加齢や健康障がいから起こるリスク・問題の要因を考える 2) 介入計画が高齢者のQOLを考えた援助となっているか考える	講義 演習 (GW)
【課題4】4講目開始前までに2次アセスメントの記載を行う 慢性期にある高齢者への看護は生命の危険を考慮しつつも、強みや思い・価値観、日常生活への影響の度合い、生活の質を重視する		
4	7. 刺激のアセスメントの検討 1) 症状と日常生活障がいの評価 2) 二次的障がいのリスク評価 3) 障がい・疾病に対する思いと自立への視点 4) 家族の支援とソーシャルサポート 5) 発達理論、セルフケア理論の活用	講義 演習 (GW)
【課題5】5講目開始前までに2次アセスメントの追加・修正を行う		
5	8. 刺激のアセスメントの検討 1) 症状と日常生活障がいの評価 2) 二次的障がいのリスク評価 3) 障がい・疾病に対する思いと自立への視点 4) 家族の支援とソーシャルサポート 5) 発達理論、セルフケア理論の活用	講義

回	授業内容	授業方法
【課題6】 6講目開始前までに介入計画の記載を行う 高齢者の安全を考慮した、生活リズムに合わせた介入計画の立案		
6	9. 介入計画の検討 1) 強み因子を活かした援助計画 2) 合併症の予防と自立の促進を考慮した援助計画 3) 家族を含めた援助計画	講義 演習 (GW)
【課題7】 7講目開始前までに介入計画の追加・修正を行う		
7	10. 立案した介入計画の実践	演習
【課題6】 8講目開始前までに評価の記載を行う		
8	11. 看護の評価	講義 演習 (GW)

授業の進め方

老年看護学の看護の展開では、パーキンソン症候群で日常生活に障害をきたした患者の看護を学習する。パーキンソン病・パーキンソン症候群は進行性の疾患であり、症状の進行や変動に応じた生活支援のあり方や家族支援のあり方を学習する。パーキンソン病で日常生活に障害をきたした高齢者の看護過程を展開し、加齢や健康障害が高齢者に及ぼす影響を理解し、高齢者の看護問題と目標設定のありよう、個別性を活かした介入計画とは何か検討していく。

成人看護学等看護過程の既習学習を活かしながら、老年看護学概論、老年看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学習内容を統合させ、個人ワーク・グループワーク・全体検討を繰り返し行うことで思考を深化させる。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)
3. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護(医学書院)
4. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)
5. 看護診断ハンドブック 第11版 リンダ・J・カルペニート(医学書院)

評価方法

筆記試験、レポート、課題、演習参加状況より総合的に評価する。